

# 動賓複合語と領属目的語について(1)

鵜 殿 倫 次

## 0 はじめに

趙元任は文法関係のひとつである動賓関係 V-O Construction をもつフレーズや複合語について精緻な構造主義的考察を行っている。しかし現代中国では、これらのうち遊離現象をもつものだけを指す「離合詞」の研究に歪小化している傾向がある。

本稿では、趙元任が「動賓複合語」と呼ぶものについて、とくにふたつのことに重点を置いて考察する。ひとつはその「遊離」現象がどのような条件で起きるかという点である。二つめは、動賓複合語が行為の対象を付帯する場合、どのような場合に他動詞の目的語となり、どのような場合に挿入的ないわゆる「領属目的語」となるかという点である。

以上の二つの点に着目しながら、まず趙元任の動賓複合語の定義に沿って、これと「対話」する形式で考察する。

## 1 趙元任1968の動賓複合語の定義

趙元任1968 *A grammar of spoken Chinese*<sup>1)</sup> (趙元任全集<sup>2)</sup>第3巻 p. 1-855) によれば「動賓複合語 Verb-Object(V-O) Compounds」は次のように定義されている。以下ゴシック体の部分が趙元任の定義を要約したもの。

6.5 複合語 (compound) としての動賓構造は次のどれか1つの条件を満たすもの。

- (1) すくなくとも一つは拘束的 bound な形態素である。
- (2) 賓語が轻声である。
- (3) 語彙性または特別な意味をもつ。
- (4) 構成要素をバラせない。

(1)の「すくなくとも一つは拘束的 bound な形態素である」の条件については、基本的にFB、BF、BBのようにどちらか一つが拘束形式のものを指す。FFの場合は(2)(3)(4)など他の条件で判断される。

#### 6.5.1 動賓複合語の構成要素がF（自由形式）かB（拘束形式）か。

すくなくとも一つが拘束的 bound な形態素であれば複合語である。どちらも自由 free である場合は、他の条件で判断する。

FB、BF、BBの例として挙げられているのは次の語彙である。少なくとも一つが拘束形式と言っても、実際はFBが最も多く、BFは少ない。「FB 打閃 (cf. 打雷 FF)」は「打閃」はFBだが「打雷」はFFという意味。

- (1) FB 式複合語 起哄 出差 出神 打猎 打閃 (cf. 打雷 FF) 打嚏 (cf. 打嚏噴 FF) 打杂儿 动身 放学 (cf. 放假 FF) 告状 开端 夸口 宽衣 注册 排队 破例 入神 入伍 上市 (cf. 上城 FF) 下乡 (cf. 下狱 FF) 洗澡 送终 辞职
- (2) BF 式複合語  
BF 式はFB 式より、はるかに少ない。たぶん名詞が自由になるためには、二音節化する傾向があるため。  
告假 (控告の告はF) 告老 告辞 忌嘴 纳税 叹气
- (3) BB 式複合語 布景 去世 革职 革命 值日 值班 投机 作揖 (ふつうは作はF) 厌世

もしFFであった場合、他の条件すなわち(1)の「賓語が軽声」か(3)の語彙の意味で動賓複合語かどうか判断される。では趙元任が挙げているFFの例「打雷 FF、放假 FF、上城 FF、下狱 FF」は、趙元任は動賓複合語として挙げたと考えられるが、どの条件に当てはまるのか。『現代漢語詞典』では「打雷 dǎ/léi」「放假 fàng/jià」「下狱 xià/yù」と賓語は軽声ではないが離合詞として語と認定している。例えば「打鈴」は〈ベルを鳴らす、ベルが鳴る〉だが「打雷」は誰かが雷を鳴らすという意味とは違うので特別な語彙的意味が認められる。「上城」は『現代漢語詞典』では語に認定していない。趙元任がここに挙げた理由は明らかではないが「上城」が(3)に該当すると認めたのだろう。おそらく(3)だと思われる。趙は 'go up to the

city—go downtown’ と注記している。〈盛り場に行く〉という意味があるのだろう。

もうひとつ重要なことは、趙元任がいう「動賓複合語 V-O compounds」は、形態的に遊離を起こすいわゆる「離合詞」だけではないことである。例えば趙元任が BB に挙げたものを『現代漢語詞典』で見ると「革職 gē//zhí」「作揖 zuò//yī~zuō//yī」「值班 zhí//bān」などは遊離する<sup>3)</sup>。しかし他の「去世」「布景」「厌世」「值日」「投机」は遊離しない<sup>4)</sup>。

趙元任が動賓複合語として挙げるのは、形態論的に形態素と認定された二つのもの<sup>5)</sup>が語をなす時に、IC 分析の視点で形態素どうしが動賓構造 V-O Construction という文法関係をもつものであって、二つの形態素が遊離するかどうかは、動賓複合語の特徴の一つにすぎないと考えているわけだ。

### 6.5.2 賓語が軽声。

フレーズ（中国語：词组）である動賓構造は、賓語にアクセント（中国語：重音）がある。だから賓語が軽声であれば、それは複合語である。

修行 得罪 抱怨 护书 盖火

趙元任が挙げた語彙が現代語でも軽声であるかを見るため『現代汉语词典 第五版』を引いてみると、〈書類カバン〉を意味する「护书（護書）」はないが、他は修行 xiū·xíng 得罪 dé·zuì 抱怨 bào·yuàn 盖火 gài·huo のように注記している。凡例によると「・ゼロ」は軽声だが、「声調」とした音節は「一般には軽声だが、ままた重読する」もので、その他の成分が挿入された時に軽重の変化があるものは「看见 kàn//·jiàn」のように「//声調」と表記をする。「看见」では「見」は軽声だが「看不见」では「見」は重読される。つねに賓語が軽声の「盖火」と「修行 得罪 抱怨」は区別してあるがいずれも軽声である。なお小学館『中日辞典 第2版』は

修行 xiūxíng

得罪 dézui

抱怨 bàoyuàn

盖火 gàihuo

のように「・」を愚かなことに取っ払ったため、「盖火」だけが軽声になって

しまった。『白水社中国語辞典』のほうは

修行 xiū·xíng

得罪 dé//·zuì

抱怨 bào·yuàn

盖火 gài·huo

と「声調」と「//声調」とで区別を行い、いずれも軽声としている。なお「得罪」は分離しない場合は dé·zui だが、「得他的罪」となる例を挙げ、その場合重音になるので「//声調」の注記がされている。『現代漢語詞典』に比較的忠実である<sup>6)</sup>。

ところで重要な点は、趙元任が動賓複合語としたものは、二つの形態素が結合したものが動詞になるだけでなく名詞になることもある点である。「得罪」「修行」「抱怨」は動詞だが<sup>7)</sup>、「护书」〈書類カバン(書類を護るもの)〉「盖火」〈コンロの火力調節用鉄ふた(火を蓋するもの)〉という動賓関係が意味する行為の道具を意味する名詞となっている。ちょうど英語の sleep から派生した名詞 sleeper が〈それによって寝るもの=寝台車〉と手段・道具の意味になるのと同じである。

賓語が軽声となる動詞としての「得罪」「修行」「抱怨」は、VO を遊離させずに用いて(「得罪」だけが遊離用法をもつ)、動賓複合語の外側に目的語をとることができる。つまり他動詞となることができる。すなわち趙元任が次の6.5.3に述べる離心的な動賓複合語である。下線が目的語である。

她老抱怨一洗头就掉头发。〈彼女は頭を洗うと髪が抜けるのが恨めしい〉

この他動詞用法をもつ点で重要なことは、次の遊離現象との関係である。趙元任は、動賓複合語には endocentric 向心(内心)用法と exocentric 離心(外心)用法とがある<sup>8)</sup>とし、離心用法の特徴のひとつが目的語をとって他動となれるとした点である。この二つの用法と動詞の種類および品詞との相関は次の通りである。

向心用法      自動詞

離心用法      他動詞、名詞、形容詞、副詞、感嘆詞

さきほど述べた動賓複合語の特徴のひとつが遊離用法をもつという点で

あったが、この遊離用法は、常に向心用法において存在し、離心用法では存在しないと考えられる点が重要である。つまり他動詞用法（離心）では、遊離しないということである。もし「離合詞」という観点でしか現象を見ないと、動詞の自他動と遊離現象との関係という大きな構図が分からなくなってしまうのである。このことは趙元任は自明のことだからか、とくに述べていないのだが、重要なことである。思いきって定式化すれば次のようになる。

向心用法	遊離用法をもつ
離心用法	遊離用法をもたない

例えば“得罪”は離心用法で使う。この場合は遊離は起きない。遊離が起これるとすると、それはアスペクト辞や領属目的語の挿入である。

那个人很容易得罪人	離心用法
?我不怕 <u>得他的罪</u> <sup>9)</sup>	向心用法（領属目的語の挿入）
*我没跟他 <u>得</u> 过罪	向心用法（アスペクト詞の挿入）

現代漢語では“得罪”は“我很容易得罪那个人。”のように離心用法があると、“我不怕得他的罪。”のような領属目的語の挿入はまずできない。もし領属目的語が可能であるとするとかかなり特異なものである。一般に離心用法が可能で他動詞として目的語を動詞の外にもつ動賓複合語は、その目的語を動詞の中に挿入する領属目的語とすることはないと考えられる。例えば“请客〈おごる〉、套话〈かまをかける〉、丢脸〈メンツをつぶす〉、拆台〈失敗させる〉、上当〈だまされる〉、打岔〈チャチャを入れる〉”などはいずれも離心用法をもたず（目的語をとれない）、領属目的語をとる。

	離心		向心
	目的語	前置詞句	領属目的語
请客	*你得请客我。	?你得给我请客	你得请我的客
套话	*套话他	跟他套话	套他的实话
丢脸	*丢脸他	给我们大家丢脸	别丢大伙的脸
拆台	*他拆台了我	*他给我拆台了	他拆了我的台

打岔	*不要打岔他	不要跟他打岔	不要打他的岔
上当	*他上当了我	*他给我上了当	我上了他的当

逆に“怀疑、抱怨”などは離心用法をもつ（“抱怨”は離心用法しかもたない）ので、領属目的語をとらない。

怀疑	我一直怀疑这个人	对这个人我一直很怀疑	*我们一直怀这个人的疑
抱怨	我抱怨过他	*不能跟别人抱怨	*不能抱别人的怨

すなわち一般に、対象を目的語として外にもつ動賓複合語は、領属目的語として内にもつことはないし、逆に領属目的語として内にもつのもは離心的に外にもつことはないということが言えそうだ。しかしこのことは尚検証が必要だろう。

### 6.5.3 離心的 exocentric な VO 複合語

動賓構造は、ふつう全体として自動詞として用いる。そうでない場合は離心複合語である。動賓構造は向心 endocentric 的な構造だと定義した。離心複合語では動詞はもはや中心ではないので、それが動賓複合かどうかは、他の複合語と同じような間接的な方法（構成要素が他の複合語で自由形式か、もしくはそれらの意味や文言での機能から）で見分けるしかない。

かならずしも必要条件ではないが、離心式と見分けられる充分条件は、賓語が軽声であることである。これは動賓複合の充分条件でもある。もっとも（必要条件ではないので）賓語が軽声でなくとも複合語である場合はある。例えば“伤风”“伤寒”は非軽声タイプだが、“伤风”は向心式動賓複合語である。“伤了很厉害的风”。いっぽう“伤寒”は離心式で展開できず“害了很厉害的伤寒”と言うしかない。

趙元任は賓語が軽声であれば、それは動賓複合語の充分条件であるとしたが、それはまた離心的な動賓複合語の充分条件であるという。これはさきほど賓語が軽声であった動賓複合語「得罪」「修行」「抱怨」は、みな離心的動詞であることから分かる。もっとも離心的な動賓複合語ではすべて賓

語が軽声だというわけではない。

我怀疑 huáiyí 他今天来不了。

この怀疑 huáiyí は、抱怨と同じ VO の構成と考えられるが賓語は軽声ではない。“怀念”（怀念母亲）“怀恋”（怀恋旧地）も同様である。ちなみに怀恨 huái/hèn は賓語は軽声でなく、遊離が可能な向心的動詞として使用する。

他一直怀恨在心。〈彼はいつまでも心に恨みをもっている〉

趙元任が挙げた「伤风」「伤寒」のどちらも賓語が軽声ではないが、「伤风」は向心的動詞「風邪をひく」として用いるが、「伤寒」は名詞「風邪」（それによって伤寒するもの⇒風邪）なので離心用法なのだ。

賓語が軽声でない複合動詞が離心式であることは、統語機能で決まる。

動賓複合語が以下の用法をもつ時は離心式である。

(1)他動詞 (2)名詞 (3)形容詞 (4)副詞 (5)感嘆詞

重要なのは「ほとんどの他動詞になれる動賓複合語は、自動詞にもなれる」「他動詞にしかなれない動賓式はずっと少ない」という点だ。離心用法をもつ動賓複合語は、ほとんど向心用法が可能ということである。

#### (1) 動賓複合語が他動詞の場合

ほとんどの他動詞になれる動賓複合語は、自動詞にもなれる。

怀疑 BB	我很怀疑那个说法	他動詞
	我对于那个说法很怀疑	自動詞
注意 BB	我从来不注意这类的事。	他動詞
	很小的东西，谁也不注意。	自動詞
留心 FF	留心地下的冰	他動詞
(留神 FB)	可惜我没留心	自動詞
出版 FB	他们出版了一部新书	他動詞
	那书快出版了	自動詞
催眠 FB	他催眠了一屋子的人	他動詞
	他会催眠	自動詞

他動詞にしかなれない動賓式はずっと少ない。

提议 FB	提议一个新办法	他動詞
-------	---------	-----

趙元任は他動詞にしか出来ない動詞として“提议”しか挙げていないが、ほかにも“抱怨”“埋怨”などがある。これは“怀疑”とは異なっている。“怀疑”は自動詞になりうる。

我埋怨他。	我怀疑丈夫。	他動詞
*我跟他埋怨。	我对丈夫很怀疑。	自動詞 (対象を前置詞句に)
*我埋他的怨。	*我怀丈夫的疑。	自動詞 (対象を領属目的語に)

さきほど、筆者は遊離現象は向心用法にのみ結びつくと言ったが、向心用法においてすべて遊離するのではなく、遊離するものと遊離しないものがある。

注意	他動	我已经注意了这种霜冻现象。(動) <sup>10)</sup>	遊離－
		美术界开始注意起他的才能来。(動)	遊離－
	自動	自己也得注点儿意。(岩) <sup>11)</sup>	遊離＋
		美术界对他的才能开始注意起来。(動)	遊離－
出版	他動	他们出版了一部新书。	遊離－
	自動	那书快出版了。	遊離－
		最近出版了很多科普读物。(動)	遊離－

“注意”では、自動の向心用法では遊離する場合があるが、離心用法では遊離しない。“出版”は離心用法で遊離しないだけでなく、向心用法でも遊離しない。“那小说出了版了”とは言われない。これは“那书快出版了”は他の場合の自動と異なり、受動の意味をもつ、つまり他動の“他们快出版那本书了。”の voice が転換した自動であることと関係がある。

例えば上記の“去世”は自動詞しかもたない(向心用法のみだ)が、遊離しない。“值日 zhírì”は遊離しないが、“值夜 zhí/yè”は遊離する<sup>12)</sup>。

老妇人去世了。	他值夜了。
*老夫人去了世了。	他值了夜了。

## (2) 動賓複合語が名詞の場合

名詞になる離心式動賓複合語は動詞の行為者、道具、動作、目的を表す。

2-1 行為者	当局 董事 领事 跟班儿 填房
---------	-----------------



2-2 道具 点心 挖耳 滴水

2-3 動作・手順 代数 排行 行政 卫生

どんな動詞も主語・賓語になれる（我喜欢打球，打球好玩）  
が量詞で修飾はできない。離心複合語は、その点が違う。

cf. 他教两堂代数，一堂卫生

2-4 目的語 照了几张照相 买了几张描红

このようなケースは少ない

6.5.1であった“盖火 gài·huo”では、賓語が轻声なら動賓複合語とされる例で挙げられた。しかしここで挙げられている名詞は賓語は轻声ではない（例：“当局 dāngjú”“点心 diǎnxīn”）。

さきほどの賓語が轻声になるので動賓複合語とされる例で、動詞となる“修行，得罪，抱怨”は離心的動詞だが、離心用法で名詞となる“盖火，护书”は、それ自体のもつ動詞の意味は離心的ではない（“盖火，护书”がさらに他の項をとる統語性をもっているわけではない）。これらの名詞の一部は動詞として用いることができるものがあるが、“填房”は名詞としては「後添い」だが、動詞としては「後添いになる、後妻となる」という意味の自動詞的動賓複合語である。“挖耳”は名詞としては「耳かき」だが<sup>13)</sup>、これを「耳をかく」という動詞としては使用しないが、かりに使われてもそれ自体は向心的な動詞である。“跟班”は名詞としては「従僕、従者」だが動詞としては“跟班 gēn/bān”は「班に加わる、勤務に従う」などの向心的な動賓複合語である。

つまり離心的な動賓複合語は、動詞として使用された場合は他の項を要求するという点で他動的になるが、名詞として使用された場合は「～のもの（行為者）」「～するもの（道具）」「～する（こと）」など被修飾語を外にもつという意味で離心的なのであり、動詞そのものは向心的なのである。

### (3) 動賓複合語が形容詞の場合

動賓フレーズが性質を表し、形容詞になる場合があるが、離心動賓複合語とは違う

出名（他動詞＋目的語）

很出名 出名极了 出名得很 形容詞のように程度副詞がつく

出过一次名

アスペクト辞や数量補語がつく

讨厌(離心式動賓複合語)

讨厌极了

先不讨厌, 后来讨厌了

動賓複合語は程度表示ができるが、動賓の間にアスペクト辞は入れられず、入れるとすると、賓語形態素のあとである。

失望 BB 从来没失望过

从来没失望过(故意に離合詞的に展開した感じ)

離心式動賓複合語が形容詞に変わった例は次のようなものがある。

缺德 吃力 到家 得意 知己 耐烦 呕气 守旧 有限

つまり形容詞としての動賓複合語は遊離しないという点が形容詞的な動賓フレーズと違うというのである<sup>14)</sup>。これは一見不思議なことである。形容詞は自動につながると考えれば、遊離作用があってもよいと考えられる。

形容詞となった動賓複合語が離心(外心)であるというのは、英語の動詞 *horrify* から派生した形容詞 *horrifying* は、直接構成素の *horrify* にない形容詞的性質を獲得していて、*horrify* で統合体を代表させることができない(*horrify* は動詞、*horrifying* は形容詞)。これと同様に“吃力”〈骨が折れる〉という形容詞は“吃”「(力を) 食べる」という動詞によって代表させることができないという意味で離心的なのである。

趙元任はアスペクト辞がついても遊離しないタイプのものを「形容詞」と定義した。この“吃力”は動詞として見た場合、自動詞用法しかないこと、しかし自動詞ならば遊離用法が可能なのにそれがないので形容詞としたのである。さきほど出てきた離心的動詞の“怀疑”の場合は“很”がつき得るので形容詞の意味をもつが、自他両用なので離心的動詞とされる。

怀疑 BB 我很怀疑那个说法。 他動詞(離心用法)

我对于那个说法很怀疑。 自動詞(向心用法)

“怀疑”が自他動両用という点は“吃力”と異なるが、しかし“怀疑”の自動用法では遊離がないという点が注目される。“怀疑”の自動用法は形容詞に近いのである。(動)は『動詞用法詞典』の用例を指す。

[離心的] 我一直在怀疑这个人。

[名詞目的語](動)

- 你竟怀疑不是他吗？ [動詞句目的語] (動)  
我怀疑他是否有能力搞好这次实验。 [文目的語] (動)  
怀疑了一下儿。 [数量補語] (動)  
我也怀疑过这个结论。 [アスペクト詞] (動)  
[向心的] 对这个人我们一直很怀疑。 [前置詞句] (動)

“怀疑”の自動詞(向心的)用法では、数量詞やアスペクト詞がついても、“怀疑了一下儿”“怀疑过这个结论”のように“怀疑”のうしろに接尾し“怀”と“疑”は遊離しない。つまり“怀了疑”“怀过疑”のようにはならない。この点で“吃力”“到家”<sup>15)</sup>“得意”が遊離しないのとパラレルである。

さきほどの離心的動詞の他動詞の用法では、遊離が起こらないことを見た。“怀疑”のような動詞が自動用法において遊離が起きないのは、一方で他動用法をもつためという要因が考えられるが、もう一つがこの形容詞的な意味をもつという点なのだ。

このような観点でもう一度趙元任の挙げた形容詞としての動賓複合語を見ると“讨厌”がある。実はこれは他動用法をもつ離心的動賓複合語“讨厌”と対応している。(漢)は『現代汉语词典第5版』の用例。

- [離心的] 他讨厌这个地方春天的风沙。 [名詞目的語] (漢)  
你讨厌走路吃东西。 [動詞句目的語] (動)  
我讨厌懦弱怀。 [形容詞目的語] (動)  
张老师讨厌没有事的人来找他闲聊。 [文目的語] (動)

趙元任は“讨厌”を離心的動賓複合語の動詞に入れるべきところを形容詞に入れたのは、他動詞としての“讨厌”〈～がきらいだ〉は形容詞としての“讨厌”〈いやだ troublesome〉とは別の単語と考えたからのようだ<sup>16)</sup>。

つまり“我讨厌他。”の“讨厌”と“他很讨厌。”の“讨厌”は「離心／向心」の関係ではなく、どちらも離心的動賓複合語であり、「他動詞／形容詞」の関係ということである。

讨厌极了〈じつにいやだ〉

先不讨厌，后来讨厌了〈最初はいやじゃなかったが、だんだんいやに

なった)

さきほどの“怀疑”の場合、離心的他動詞としての“我怀疑他。”に対して、“他很怀疑”と言った場合〈彼は疑わしい〉という意味にはならず、〈彼は(誰かを)疑っている〉という意味になるので、離心的形容詞ではなく、向心的な自動詞と考えるべきなのだ。

離心的用法をもち、自他動両用で、自動で遊離しないという特徴をもつものに“小心”<sup>17)</sup>がある。これも自動で形容詞的になるが向心的自動詞なのである。

[離心的]	小心敌人。	[名詞目的語] (動)
	你要小心那个人。	[名詞目的語] (動)
	小心汽车。	[名詞目的語] (動)
	小心触电。	[動詞句目的語] (動)
	小心他碰上你。	[文目的語] (動)
[向心的]	你要比别人更小心。	
	你对那个人要小心。	
	他很小心。	
	他也小心过几次。	
	你要小心着点儿。	

この“小心”も“怀疑”(そして“讨厌”)と同様、感情の状態を表し、形容詞的性質をもっている。“小心”はアスペクト詞、数量詞がついても“小心过一次”“小心点儿”となり、“小过一次心”“小点儿心”のように遊離することはない。

ところが、“关心”“放心”“担心”“注意”などは、自他両用で、自動詞で遊離が可能である。

“关心”

[離心的]	我很关心他。	
	老师很关心我们。	
[向心的]	家里的事你也稍微关点儿心啊。	
	你对家里的事稍微关点儿心啊。	

“家里的事你也稍微关点儿心啊”における“家里的事”は、意味的には“关心”の対象だが、“关心家里的事”とはなっておらず、“关点儿心”の前に置かれている。したがって“你对家里的事稍微关点儿心啊”と同様の自動詞用法と考えられる。

“放心”

- [離心的] 我不放心他。[名詞目的語]〈私は彼のことが心配だ〉  
[向心的] 我对他不大放心。〈私はあまり彼のことが信用できない〉  
我放了心。(“我放心了”も可能)

“担心”

- [離心的] 担心在外地的孩子 [名詞目的語]  
担心出错 [動詞句目的語]  
担心学习成绩不好 [文目的語]  
你要小心着点儿。[数量補語]  
[向心的] 担心了半天～担了半天心。(動)  
担心了一个多月～担了一个多月心。(動)  
妈妈为你担心了好几天。(『動詞大詞典』)  
家长就从未为他担心过。(『動詞大詞典』)

『動詞用法詞典』によると“担心”は“担了一个多月心”のように遊離できるとしている。

“注意”

- [離心的] 注意身体。[名詞目的語] (動)  
注意休息。[動詞目的語] (動)  
注意健康。[名詞目的後] (動)  
注意这种螟虫是怎么危害水稻的。[文目的語] (動)  
注意上你了。  
[向心的] 厂长对产品的质量很注意。(動)  
街上没有路灯,你要注点儿意,别摔倒了。(『東方中国語辞典』)

『東方中国語辞典』では「北京の話し言葉では離合詞として用いることがある」として、遊離する例を挙げている。

以上の“关心”“放心”“担心”“注意”は向心用法と離心用法を兼ね備え、かつ遊離用法<sup>18)</sup>をもっている。この点で自他動可能だが自動でも遊離しない“小心”“怀疑”との違いがある。

#### (4) 動賓複合語が副詞の場合

用手打人

用心做事

副詞として次の特徴をもつ

- a 副詞で修飾できる 太认真
- b “地”がつけられる 拼命地跑
- c 重畳させることができる 用用心心地写
- d アスペクト辞や賓語の修飾語で拡張できない

この離心的動賓複合語が副詞の場合も、形容詞の場合と同様に拡張して遊離させることができない。

#### 6.5.4 語彙性や特殊な意義があるか。

動賓の構成要素が、どちらも自由形式であった場合、複合語かどうかは、意味などで見極めるしかない。

吃梨 买鞋 洗锅 找猫 複合語ではない。二語のフレーズ  
亲嘴 发财 算命 翻脸 一定の語彙性（単字の意味とは違う）  
做活 背书 断奶 开车

この語彙的意味での認定は、動賓の構成要素が自由形態素の組み合わせ（FF）の時だが、例えば“拍马屁”“炒鱿鱼”のように語が組み合わせられ、慣用的に新たな語彙的意味を生じている場合も動賓複合語の範囲に含めることができるのかという問題が残る。

#### 6.5.5 組み合わせの頻度

程度問題であり、動賓複合語かどうかを決める決定的なものではない。“吃梨”は“吃饭”ほどよくある組み合わせではない。“搬床”〈ベッドを動かす〉は“搬家”〈引っ越す〉“上床”〈寝る〉ほどよくある組み合わせではない。よく組み合わせる動賓複合語は次のものである。

- 扯谎 〈うそを裂く→うそをつく〉  
 出家 〈家を出る→僧侶になる〉  
 放火 〈火を置く→放火する〉  
 放心 〈心を置く→安心する〉  
 拐弯儿 〈角を曲がる〉  
 开饭 〈ご飯を開く→食事を始める〉  
 开帐 〈帳簿を開く→勘定を払う〉  
 算命 〈命を数える→運勢を判断する〉  
 谈天 〈天を語る→無駄話をする〉  
 做梦 〈夢をする→夢を見る〉

趙元任は、動賓関係の章で、一般に FF の VO 関係でも、動賓構造の構成素を「組み合わせた意味」と「結合面の広さ・狭さ」と「慣用性」について言及している。「慣用的な V-O 関係」は動賓複合語の必要条件の(4)「語彙性」に関わるものだが、「結合面の広狭」のほうが必要条件の(5)「組み合わせの頻度」に関わっている。

動賓関係における動詞と賓語との「結合面の広狭」、「組み合わせの頻度」というのは「夢を見る」という場合、“夢”という賓語に対する動詞は“做”以外は使わない。あるいは「無駄話をする」という時、“談”の賓語としては“天”という賓語しか買わない(“聊天”の“天”)。「勘定をはらう」という時、「勘定」という意味では“帳”という賓語を使う(“算帳”)。「角を曲がる」という意味では“弯儿”しか使わない(“转弯”)。

つまり動詞・賓語の決まった組み合わせが動賓複合語となるという。

「組み合わせの頻度」と「語彙性」とどう違うのか。語彙性の方は元の意味的現象から離れた意味を得るものを言う。

語彙性	拍马匹	たたく・馬の尻	→こびへつらう
組み合わせ頻度	拉关系	引く・縁故	→縁故をむすぶ、コネをつくる
語彙性	开车	開く・車	→車を運転する
組み合わせ頻度	开饭	開く・ご飯	→ご飯を始める

趙元任は“算命”を語彙性にも組み合わせ頻度のほうにも入れている。運命を占うという場合の「占う」には必ず“算”を使うという点では、組み合わせ固定しているということだが、「命」を〈運命〉という意味ではなく、〈いのち〉としたら“算命”は〈命を数える〉という意味になる。命は一つしかないのにどうして数えられるかという点で、「運勢を占う」と意味の落差が生じるので、語彙性にも入れられるということだろうか。

### 6.5.6 拡大式と遊離式

#### (1) 切り離せない動賓複合語（どんな条件でも遊離しない）

拡大性が最小。二つの語成分の関係は文言や類推でしか決められない。

厌世 BB 分娩 FB 跑街 FF 〈外回りをする、外交する〉

#### (2) 接尾辞や補語がつけられる動賓複合語

大多数の向心的動賓複合語。

断弦 〈連絡がなくなる〉 他断了弦就一直没续过弦  
作揖 做作揖 做完揖就走了

#### (3) 賓語に修飾語がつけられる動賓複合語

注意 BB 注点儿意  
省事 FF 省许多事  
费神 FB 费了您许多神  
雪耻 你得雪这个耻

賓語がバウンドで準量詞の場合、数詞がつけられる。

打架 打一架  
上课 上这一课  
睡觉 睡了一觉 〈ひと眠りした〉

#### (4) 動詞と賓語がひっくり返せるもの

捣乱 BB 这乱捣得不小 “乱”は拘束形式だが、形容詞がつくと自由形式になる。

睡觉 FB 你的觉得睡足了  
破产 \*产都破了 破了产は言える  
动身 \*身还没动 动了身は言える

ここで趙元任は、拡張（遊離）のさまざまなレベルを示した。この中で、



どんな条件でも切り離せないとした例には離心的な動賓複合語は含めていない。趙元任はなぜかどこにも明示的に「離心的なものは遊離しない」と述べてはいない。趙の挙げる切り離せないものはすべて向心的なものである。

厌世 BB 分娩 FB 跑街 FF

“厌世”は“厌学”“厌食”などと同様に向心的であって遊離できない。FFの“跑街”〈外回りをする、外交する〉を拡張し“跑了一天街”とするという意味は「町を一日走り回った」という意味で〈外回りをする〉という語彙の意味は失われる。

(5) 動賓複合語は問答形式での自由度が違う

- a 動賓+不+動賓? 動賓。 a' 動賓+不+動賓? 動。
- b 動 +不+動賓? 動賓。 b' 動賓+不+動賓? 動。
- c 動賓+不+動 ? 動賓。 c' 動賓+不+動 ? 動。
- d 動 +什么 ? 動賓。 d' 動 +什么 ? 賓。

遊離しない動賓複合語はa式となる。動詞だけもしくは賓語だけで答えるのはその動または賓がFのものである。しかしこれは必要条件であって十分条件ではない。というのはFFのものでも、賓だけの答えができない「語彙の意味」をもつものがある。

- a 打字不打字? 打字。~打。
- b 打 不打字? 打字。~打。
- c 打字不打 ? 打字。~打。
- d 打什么 ? 打字。

“打什么?”の答えは“字”だけは言えない。“打字”は〈タイプする〉という意味であり、この場合の“打什么?”も「何を打っているの?」という意味ではない。

趙元任は動賓複合語の遊離の程度を測る方法として、このテストを提案している。なお史有為1983はこれによって三段階の自由度の区別をした。

### 6.5.7 動賓複合語の Goal

動賓複合語の中の賓語は動作の目標を表すが、それが表さない目標を導入するには

- (1) 離心的な動賓式により他動詞となる      當心火濁 起草一個憲法  
 (2) “跟”“給”で目標語を付け加える

出版一本書      給一部書出版

\*打字這個信      給這個信打字～把這個信打字

\*錄音那個演說      給那個演說錄音

\*照相大家      給大家照相

\*親嘴他      跟他親嘴

- (3) 倒置賓語

那個演說得先錄音

倒置賓語にすれば“給～”をさらにつけることもできる。

那個演說得先給他錄音

- (4) 領属賓語 possessive object

領属目的語で対象を表せるものの中には“給”“跟”“對”の前置詞句（趙元任は連動句と呼ぶ）で表せるものがある。

請示〈指示を仰ぐ〉      請他的示      跟他請示

請客〈おごる〉      請我的客

費心〈気をつかう〉      費您的心      （費心您もある）

告密〈密告する〉      告他的密

革命〈革命を起こす〉      革他的命〈彼にたいし革命を起こす〉

如意〈意にかなう〉      如他的意      給他如意

上算〈わりがあう〉      上他的算

生氣〈腹をたてる〉      生他的氣      跟他生氣～對他生氣

送行〈送別する〉      送他的行      給他送行

趙元任は“費心”が領属目的語もとれ、離心的にもなるとしている。しかし“費心”は現代漢語では“您要是见到他，費心把这封信交给他”のように依頼の際の相手への気持を表す語として、あるいは“让您费心了”と礼を言う時に使われる。趙元任のあげる領属目的語をともなったり、離心用法で目的語をとる“費心您”のような例は「ご迷惑おかけします、お世話になりました」の意味で使用される例と思われるが、現代では使用されな

い。

“费心”の例を除くと、趙元任の挙げた例では、領属目的語をとる動詞が“给”“跟”で対象名詞をとることはあっても、離心的他動詞として目的語をとる例はないことがわかる。

これはこういうことである。“关心，注意，担心，不放心”は離心用法をもち、対象名詞を目的語にとることができる。また同時に向心用法をもち遊離現象をもつ。例えば“关心”の例を示す。

老师很关心我们。	離心用法
老师对我们很关心	向心用法 非遊離 “对” + 対象名詞
家里的事你也关点儿事啊。	向心用法 遊離

しかし向心用法において、領属目的語で対象名詞を導入することはできないのである。

\*老师总是关我们的心。〈先生はいつも私たちが気にかけている〉

趙元任は“费心”のように離心的他動用法をもちかつ向心用法で領属目的語をとる例を排除していないけれども、仮にそうした例があっても、一般的傾向としてはきわめて例外的と言えよう。

遊離の条件、領属目的語が使われる条件については趙元任は何ら明示的には述べていないのだが、趙元任の挙げた例などを観察すると、帰納的に以上のようなことが言える。

## 注

1) 6.5 Verb-Object(V-O) Compounds. 趙元任 1968 *A grammar of spoken Chinese* University of California Press, p. 415-434

丁邦新譯『中國話的文法(増訂版)』中文大學出版社, p. 214-222

2) 『趙元任全集』第3卷, 商務印書館, 2004, p. 430-449

3) 例えば「革職 gē//zhí」は「他上个月革了职」〈彼は先月クビになった〉のように遊離する。

4) 「革命」は『現代汉语词典』では動詞 gē//mìng と注記されている。

5) 趙元任は殆ど一つの形態素が一音節のものが二つ結合して二音節語となっ

- たものを例として挙げるが、「拍马屁」「吵鱿鱼」のように、「一形態素＋二形態素」の三音節語も動賓複合語とするかは問題である。もし認定するとすれば、これらは三形態素（三音節）の動賓複合語である。
- 6) 『講談社中日辞典』では「・」は取っ払われているが、得罪 *dézuì*～*dézui* のようにふたつ発音があることが注記されている。『東方中国語辞典』は「・」を保持し、『現代漢語詞典』の軽声の記述に比較的忠実である。ただし「//声調」の表記はない。
- 7) もちろん「修行」は〈修行する〉の他に〈修行〉という名詞の意味もある。ここで名詞というのは、「盖火」のように名詞の意味しかたないものである。
- 8) 「endocentric 向心（内心）構造」と「exocentric 離心（外心）構造」とは構造主義の IC 分析における考え方である。“cold water” のという構造体の統語機能（＝名詞）は直接構成素 *water* で代表させることができ、中心が中にある。これを内心構造という。これに対して “John put a book on the table.” の “on the table” の統語機能（＝副詞）は、直接構成素 “on” にも “the table” にもなく、中心は外にある。これを外心構造という（小泉保『言語学コース』大修館書店、1984、p. 154-157）。趙元任はこれを動賓複合語の統語構造にも適用した。“他结婚了”における“结婚了”という構造体のもつ自動詞性は、直接構成素“结”と“婚”の動賓関係の中で完結しており、内心である。これに対し“我抱怨他”の“抱怨”がもつ統語機能すなわち“他”という項をとる機能（これも別の意味での動賓関係）は、その直接構成素である形態素の“抱”にあるわけではない。動賓複合語の外につく名詞との間に動賓関係が成立するのだから外心構造であると考ええる。“盖火”の構造体のもつ統語機能を [～する道具] という名詞機能であるとする、これも構造体内の形態素、あるいは形態素間で生じるものではなく、“盖火（的工具）”のように構造体の外に仮定した要素がもつものである。だから外心構造と呼ぶ。
- 9) 「我不怕得他的罪。」という用例が『白水社中国語辞典』にはある。小説からの用例と思われるが、現代口語ではこのような用法はない。遊離が起きたこの例が可能とすると、これは向心用法であり、自動詞なのだ。なぜ現代口語では領属目的語をもつ用法がないのかは、後述するように“得罪”が離心的に他動用法をもち、対象名詞をとりうるからと考えられる。
- 10) (動)：孟纓踪，郑怀德，孟庆海，蔡文兰『汉语动词用法词典』商务印书馆，1999
- 11) 倉石武四郎『岩波中国語辞典』岩波書店、1963
- 12) 『现代汉语词典 第五版』
- 13) 現代語では「耳かき」は“耳挖子”“掏耳杵”
- 14) “出名”を趙元任は動賓フレーズとしているが、『现代汉语词典』は、“chū//

míng”とし、語と認定している。

- 15) 『現代汉语词典』では dào/jiā となっている。用例は「他的表演还不到家(かれの演技はまだ水準に達していない)」が拳がっているが、「他的表演到了家了」と言いうるのかも知れない。
- 16) 対象名詞を付帯する時“小心”は他動で“你要小心那个人”、自動で“他对那个人很小心”のように言うことができるが、“讨厌”では他動の“我讨厌那个人”は自動で“我对那个人很讨厌”と言うことはできない。じつは「自動」の“那个人很讨厌。”における“讨厌”は他動“我讨厌那个人”の目的語を主語としているので、ヴォイスが転換している。したがって「自他動対応」と言っても、“讨厌”は“小心”タイプと違うのである。このため趙元任はこれを離心用法の形容詞としたのであろう。“怀疑”は“小心”タイプであって、他動“我怀疑那个说法。”自動“我对那个说法很怀疑”と対応し、対象名詞を主語にして“那个说法很怀疑”と「ヴォイスの変換」をすることはできない。
- 17) ここでは“担心”“关心”“留心”と同類の動賓複合語と見なす。つまり「小さい心」という偏正構造ではなく「心を小さくする」という動賓構造であると考える。
- 18) 後述するけれどもこれら他動用法をもつ“关心”“放心”“担心”“注意”は、向心的自動用法で遊離して入れこむことができるのは、アスペクト詞、数量詞等であり、領属目的語を入れることはできない。つまり“老师关心我们。”は“老师关我们的心。”とはならない。

## 参考文献

- 相原茂編 2006 『講談社中日辞典』 講談社  
相原茂・荒川清秀・大川完三郎編 2003 『東方中国語辞典』 東方書店  
愛知大学中日辞典編纂処編 1999 『中日大辞典 増訂第二版』 大修館書店  
伊地知善継編 2002 『中国語辞典』 白水社  
倉石武四郎 1963 『岩波中国語辞典』  
小林桂吾 2006 「中国語における動賓複合語について」 愛知県立大学外国語学部卒業論文  
李行健主編 2004 『現代汉语规范词典』 外语教学与研究出版社  
刘月华他 1983 『实用现代汉语语法』 外语教学与研究出版社  
相原茂他訳 1991 『現代中国語文法総覧』 くろしお出版  
吕叔湘 1979 「汉语语法分析问题」 『汉语语法论文集』 商务印书馆1984  
吕叔湘主編 1979 『现代汉语八百词』 商务印书馆  
鲁川主編 1994 『动词大词典』 中国物资出版社

- 陆检明 2005 『现代汉语语法研究教程 第三版』 北京大学出版社
- 陆志围 1957 『汉语的构词法』 商务印书馆
- 孟琮他 1987 『动词用法词典』 上海辞书出版
- 日中共同編集 2003 『中日辞典 第二版』 小学館
- 施茂枝 1999 「述宾复合词的语法特点」 『语言教学与研究』 1999年第1期(总第79期)
- 史有为 1983 「划分词的普遍性原则和系统性」 『语法研究与探索』 (一) 北京大学出版社
- 王力 1943 『中国现代语法』 中华书局
- 趙元任 1968 *A Grammar of Spoken Chinese*, University of Colifornia Press
- 呂叔湘訳 1979 『汉语口语语法』 商务印书馆
- 丁邦新訳 1980 『中国話の文法 増訂版』 中文大学出版社
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 2005 『现代汉语词典 第5版』 商务印书馆
- 周上之 2006 『离合词研究 汉语的语素、词、短语的特殊性』 上海外语教育出版社
- 朱德熙 1982 『语法讲义』 商务印书馆
- 杉村博文・木村英樹訳 『文法講義—朱德熙教授の文法要説』 日帝社